

文化講座 1 **自給率の低い日本の食料供給は大丈夫か。コメの役割は？**

講師：河崎厚夫氏（全国食糧保管協会専務理事）

2024年9月1日（日）14：00～16：00 緑が丘文化会館 参加：31名

主催：目黒区教育委員会 主管：NPO法人目黒ユネスコ協会



迷走台風による不安定な天気の中、講演は行われた。

初めに爲季会長より、目黒ユネスコの目的の一つ「地域文化への貢献をめざす」ためのものであるという挨拶と、講師紹介があった。

「米」は、私たちにとって最も身近で重要な食品ではあるが、近年は多くの問題が浮上してきている。折しもこの8月になってからは、米不足や備蓄米の放出についての報道が私たちの不安を煽っている。講演は、まず、これらの報道の背景から始まった。

「我々消費者用の米は大手生産者・卸業者が確保している」「需要の増加は、ウクライナ戦争に伴う小麦製品価格の上昇により、米の消費拡大がおきていることが原因」「本当に足りないのはせんべいなどの加工用の米」ということ、米の価格や流通のしくみなどについて、河崎氏はパワーポイントを使いながらデータに基づいた表や画像を分かりやすい言葉で説明してくださった。

日本の自給率が低い原因として、戦後にアメリカの農業政策に組み込まれパン等の粉食を余儀なくされ「国土のみならず胃袋までも占領された」ことが大きいと指摘された。

その後の経済高度成長期にあつては、工業製品輸出の見返りとして食料の輸入が必然であったこと、食の多様化に伴う農村の空洞化、米

が政治物資化（米価格を上げることが政治家の票獲得に影響）するなど、「現在の豊かな食生活の陰で犠牲になったものも多い」と述べられ、

更に‘天ぷらそば’における各素材の自給率を例に、政府には国民の食糧が自給できる国政を目指して欲しい、という考えも示された。また、今年度になって改正された「食料・農業・農村基本法」については、基となる

「食料安全保障」という概念の歴史や、概要と問題点について、近年の世界情勢や食品流通上の国際ルールとのギャップの説明も加えながら話していただいた。

縄文遺跡を訪ね歩くことがご趣味とおっしゃる河崎氏。日本人と米の関係、米の将来性について一番話したかったと、熱く語られた。「稲作は縄文時代から行われており赤米だった、その歴史は白い米を作る苦労の歴史でもある」「米は全ての必須アミノ酸とレジスタントスターチを多く含むスーパーフード」「米粉や米ゲルの開発により米利用が拡大中」そして「米粉パンは単にアレルギー代替食ではなくおいしいパン」と聴講参加の米粉パン職人の紹介があった。

農政の課題と希望を、専門的でありながらユーモアも交えた米への愛情深い河崎氏の講演に参加して、米についてもっと知りたいと感じたのは私だけではないだろう。

広報 鈴木やよい



サイエンス教室 「ロボットプログラミングに挑戦しよう！」

講師：山崎 匠氏 東京メトロプログラボ目黒 参加児童：小学生6名 会場：緑が丘文化会館
 日時：2024年7月27日(土) 9:30~11:30 主催：目黒区教育委員会 主管：NPO 法人目黒ユネスコ協会

今年度はロボットプログラミング教室を、初めて夏休みの午前中に実施しました。多くの申し込みを期待したのですが、9名と少なく、当日の参加は6名だけでした。毎回希望の多いロボットプログラミングなので、次回は実施時期や時間の設定を再検討したいと思います。

講師以外に6名のスタッフの方が来てくださったので、マンツーマンの手厚いサポートで、子どもたちは安心してロボットの組み立てやプログラムの作成や修正に取り組んでいました。基本の形のロボッ



トに、家で飼っているクワガタをイメージして部品を取り付けるなど各自が工夫をしていました。ロボットを走行させるコースは、平行四辺形のパネルを並べていくのですが次々に数を増やして難しいコースを作っていました。曲がる角度や進む距離

に応じてプログラムを修正しながら挑戦していました。参加人数が少なかった分、逆に思う存分ロボットの走行とプログラムの修正を繰り返して、活動にたっぷりとひたることができ、どのお子さんも満足できたようです。 理事 岩佐 富雄

支援通信 目黒平和祈念のつどいと千羽鶴

日時：2024年8月6日(火) 9:00~
 主催：目黒区 会場：区民センター

8月上旬にしては比較的涼しい朝、「令和6年度 平和祈念のつどい」の式典が始まった。戦没者を慰霊し、平和への祈念を込めて黙とうが捧げられ、会場の一人一人が献花台に菊花を手向けた。目黒区長は挨拶で、「目黒区民28万人のうち25万3千人が戦後に生まれている。戦争の記憶が薄れつつある中で、終戦からずっと『核兵器の恐ろしさ』『平和の尊さ』を脈々と伝え続けてきた。これから先も、できるだけ多くの若者たちにしっかりとバトンを繋いでいくことが大人の重要な責務である」と話された。

今年も平和を再確認するための事業の一環として、目黒区から23名の小・中学生が広島市の平和式典へと出発した。目黒区の小・中学校では、先生方のご指導の下、「平和祈念標語」が作られ5,034点もの作品



が集まったそうだ。

「一人一人の優しさが平和の道へのカギになる」
 「守りたい みんなの命とその笑顔」
 「核を捨て みんなで育てる平和の木」
 「命は一人にたった一つだけ 誰かに使われていい生命なんて一つもない」他

一つ一つの標語が胸を打つ。子供たちが真剣に平和と向き合う姿が切なくもあるが、希望を感じさせてくれる。令和5年度に広島へ派遣された小・中学生の体験レポートでは、原子爆弾の投下によって20万人の人が亡くなり、今なお苦しんでいる方々を目の当たりにした衝撃の大きさが異口同音に語られていた。生きる人々にとって何が大切なのか。この子供たちが感じ取ったことは、やがて将来、次の世代へ『戦争の悲惨さ』『平和の尊さ』を考える種まきとなるに違いない。 広報 白岩 葉子

目黒ユネスコ協会からの千羽鶴

毎年7月のほたる祭りに参加して、パーシモンホールホワイエで祭りに来ている子供たちと保護者に折っていただいています。今年は今までで1番の450もの千羽鶴が折られました。折ってくださった子供たちと保護者には「くるりんぱカード」を差し上げています。

今年も、会員や、MIFA フェスタの会場で青少年たちが折った千羽鶴と一緒に、平和の特派員の子どもの手で、広島平和の記念公園の「原爆の子の像」へ供えられました。有難うございます。 副会長 望月 昇

Teatime 「日本語教室と私」 会員紹介 中島 佳子 (元理事)

今年目黒ユネスコ協会は創立 70 周年とのこと、思い立って 50 年史、60 年史をパラパラと見返してみた。懐かしいお顔、出来事、その歴史に刻まれた重みを感じた。確か 1992 年だったかと思うが日本語教室スタッフの一員として受け入れて頂いたことで、私の会員としての第一歩が始まった。最初、夜のクラスを担当し、仕事帰りの疲れた学習者を何とか興味を持てるように楽しく引っ張っていかうするのは大変だったが、ある日クラスの後のお茶のみに誘われた。私が入ったことで、日頃気になっている言葉や日本人の不思議に思える行動など質問攻めにあった。クラスの時より活発に言葉が出るのに驚いた。勿論悩み事はあるとは思いますが、心配しなくても彼らは充分逞しく日本の生活を楽しんでいることを知った。出身国はバラバラだったが、同じクラスの仲間としての絆が生まれているのが嬉しかった。この中にタイの女性がいた。お国では味わえなかった学びの楽しさを知って努力を重ね、後に日本語能力検定 1 級を取り、友達とタイ料理のお店を開いた。控えめで華奢な彼女の中に驚くほどのやる気が秘められていた。

夫の転勤に付き合っの海外生活で、困った時に手を差し伸べてくださった人々。その温かさが忘れられず、帰国してからも何か私に出来ることはないかと考えていた。日本語を覚えてもらうことで少しでも日本



や日本人を理解し、毎日の生活を楽しんでもらえるのではないかと、何とかお役に立てているのではないかと続けていたが、32 年を振り返ると、出会いと別れを繰り返した中で、多くを学ばせてもらったのは私の方だった。

昨年の 12 月で日本語教室から離れ、学習者の笑顔に会う機会がなくなって寂しい。クラス運営の中で落ち込みそうだった時、ハッとするようなアイデアで私の背中を押してくれたり、即答のできない質問で私を成長させてくれたり、すべて愛おしい思い出になった。そしてその貴重な経験をする機会を与えてくださった目黒ユネスコ協会に感謝している。

1987 年に当時祐天寺駅にあった横浜銀行の会議室をお借りして始まった日本語教室は今 100 人を超える学習者、30 人以上のスタッフで運営されている。世界を見回すと終わらない戦争、胸の痛む映像を見ていると一口に「平和の砦」と言ってもその構築がいかにも難しいものか解る。せめてこの日本語教室の小さな集まりからでも相互理解の輪が広がり平和の基になっていくことを願っている。

★感謝の言葉★ 長い間目黒ユ協の様々な活動に愛情豊かなお気持ちでご貢献頂きました。有難うございます。引き続き、広報委員会等で、辛口のご指導よろしく申し上げます。 広報 齊藤 眞澄

創立 70 周年記念 第 50 回目黒ユネスコ平和コンサート 2024

2024年10月13日(日)13:00 開場 ♥ 目黒パーシモンホール小ホール

★第1部:記念コンサート 13:30~ ♥中島麻/バイオリン ♥鳥羽亜矢子/ピアノ

★第2部:創立70周年記念 祝賀会 15:30~ ※式典後ホワイエにて乾杯

♥大勢の会員並びにご友人の皆様のご参加お待ちしております。

★ 詳細:目黒ユ協会 HP 参照

★ユネスコ文化講座 2 区報 10月15日号

受託 ユネスコ文化講座 2

改めて考えよう、男女平等は誰のため？

～NHKドラマ「虎に翼」を素材に～

講師：浅倉 むつ子氏 早稲田大学名誉教授
国際女性の地位協会共同代表

日時：12月1日(日)14:00～16:00

会場：中目黒 GT プラザホール

定員：80名(先着) 参加費：無料

申込期間：10月15日～11月20日

申込方法：講座名「12月1日文化講座 2」、
氏名・同伴者名、住所・電話番号を明記。
目黒ユ協会 HP の申し込みフォームに記入のうえ送信、
または FAX(03-5725-6160)で申込。

★ユネスコ国際交流ひろば 区報 11月15日号

受託 国際交流ひろば・日帰りバスツアー

「長瀬と秩父散策」

日時：12月6日(金)8:30～18:30頃

集合：目黒川舟入場公園 8:15 厳守

行程：長瀬岩畳・秩父神社・お祭り会館・秩父銘仙館

参加費：3,500円(昼食代他を含む)

募集人数：80名(16歳以上)

・申し込み多数の場合は抽選

申込期間：11月15日～11月25日

申し込み方法：往復はがき(1枚に1名)に

氏名・フリガナ・年齢・性別・国籍・住所・電話番号

・イベント名「日帰りバスツアー」を明記の上、

下記へ送付のこと。

NPO 法人 目黒ユネスコ協会

〒153-0053 東京都目黒区五本木2-24-3

五本木小学校内

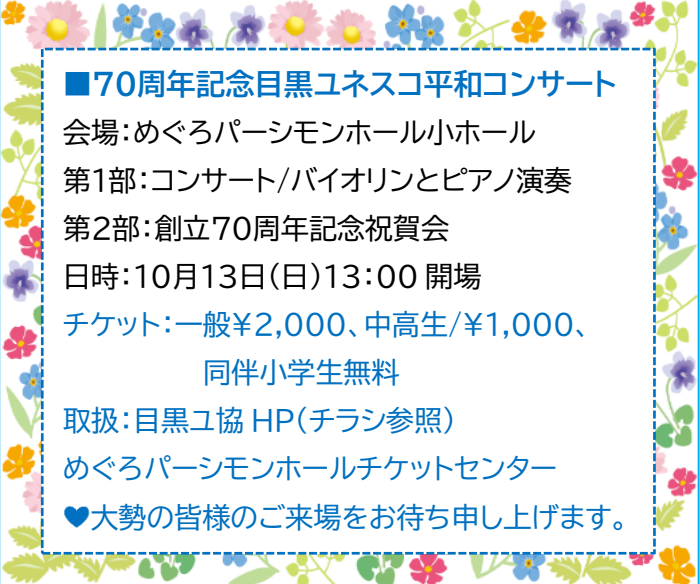
★共通/対象：目黒区在住・在勤・在学の方優先。

*詳細は目黒ユネスコ協会 HP 参照。

■新入会員 どうぞよろしく(敬称略) ◇ 伊藤 悠

◇会員募集中◇ 趣旨に賛同される方の入会を歓迎

いたします。申込問合せは事務局(久富)まで。



■70周年記念目黒ユネスコ平和コンサート

会場：めぐろパーシモンホール小ホール

第1部：コンサート/バイオリンとピアノ演奏

第2部：創立70周年記念祝賀会

日時：10月13日(日)13:00 開場

チケット：一般¥2,000、中高生/¥1,000、
同伴小学生無料

取扱：目黒ユ協会 HP(チラシ参照)

めぐろパーシモンホールチケットセンター

♥大勢の皆様のご来場をお待ち申し上げます。

9月・10月以降の予定

- ★9/1(日)文化講座①「コメの役割は？」
- ★9/4(水)ボランティアのための日本語教育研修講座
- ★9/10(火)初めて習う日本語講座・
- ▲9/10(火)目黒ユネスコ日本語教室
- ★9/21(土)初級イタリア語講座
- 10/12(土)関東ブロック研究会(茨城)
- 10/13(日)創立70周年記念コンサート&祝賀会
- 11/23(土)日本ユネスコ運動全国大会(新居浜)
- ★12/1(日)文化講座②「男女平等は誰のため？」
- ★12/6(金)交流ひろば「長瀬と秩父散策」
- ★12/15(日)青少年フェスタ
- 自主語学教室 6 講座
(仏1・英1・独1・伊1・中1)
- 事務局(月-金 13:00～16:00)

■目黒ユネスコ協会主催

●目黒ユ協会の関連機関・団体との協力事業

▲目黒ユ協会の関連機関・団体との共催事業

★目黒教育委員会からの受託事業

最新情報は HP からどうぞ



編集後記

草むらからは秋の虫たちの声が聞こえ始めました。立秋もすぎ、やっと猛暑・酷暑から解放されるような気配です。そんな中、2013年「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」の構成の一部として世界文化遺産に登録された山梨県にある『忍野八海』へ。澄んだ水と空気、多くの国内外の人々の笑顔。忍野村にあるいくつかの池を巡りながら「この穏やかな風景が世界へと広がってほしい」と願いました。 太田 優枝

